



海底下CCS制度専門委員会における 検討状況について

令和5年11月7日

中央環境審議会水環境・土壌農薬部会（第11回）

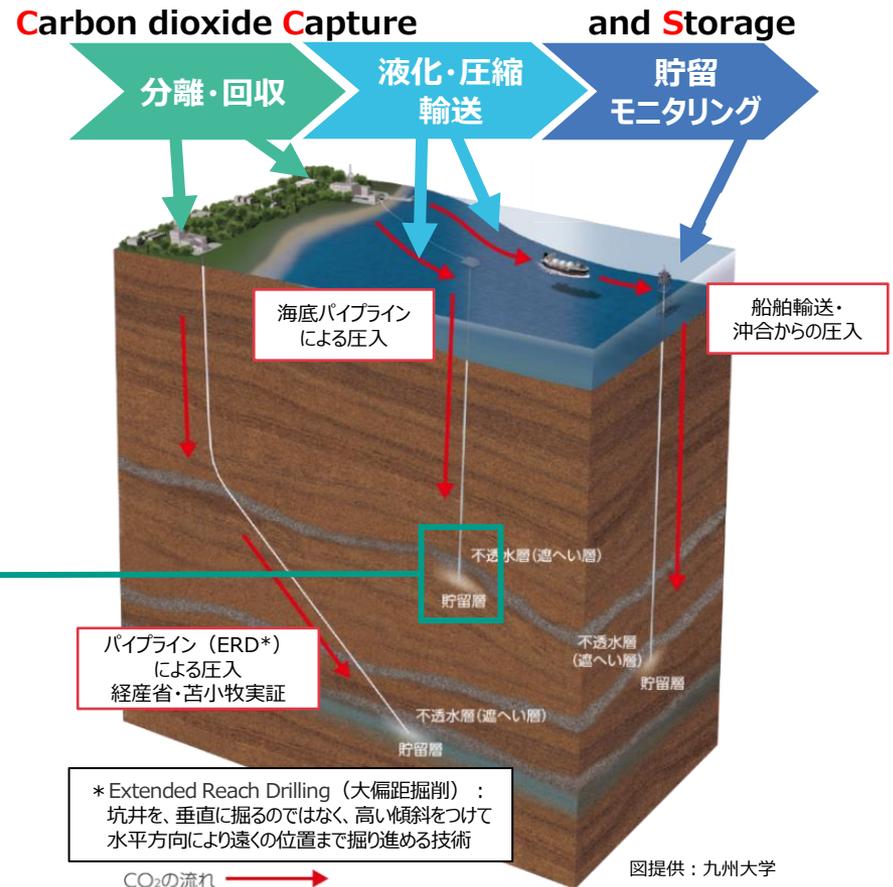
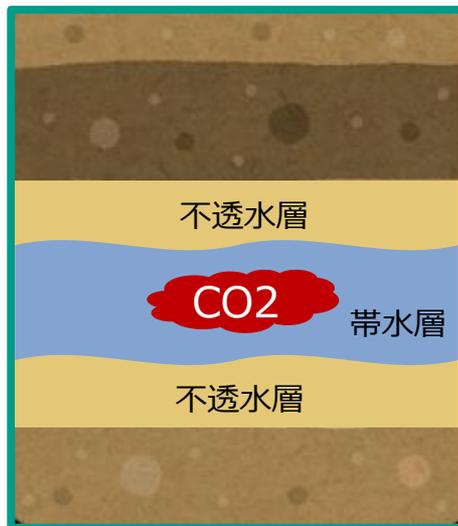
二酸化炭素回収・貯留（CCS）とは

- 二酸化炭素回収・貯留（**CCS**）とは、発電所や工場などにおいて化石燃料を使用した際などに生成される二酸化炭素（**Carbon dioxide**）を分離・回収（**Capture**）し、地下に貯留（**Storage**）する技術。これにより、二酸化炭素の大気中への放出を大幅に削減しようとしている。
- 平成28年2月、経済産業大臣により北海道苫小牧沖における海底下CCS事業の許可申請が行われ、同年3月、環境大臣の許可を発給。同年4月から苫小牧沖において、国内第1号の海底下CCS事業が実施中。

CO2の貯留（S）の技術

■ 帯水層貯留

空隙の多い帯水層にCO2を圧入する方式。



特定二酸化炭素ガスの海底下廃棄（海底下CCS）の許可制度の概要

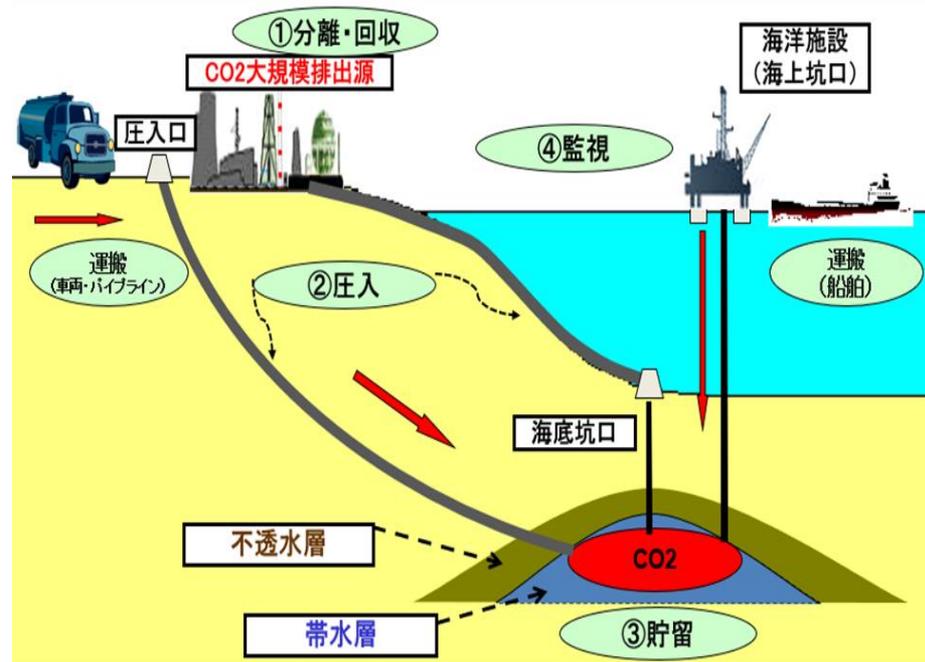
海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律（昭和45年法律第136号）

1. 廃棄物の海底下廃棄の原則禁止

廃棄物を海底の下に廃棄することを、環境大臣の許可を受けた場合を除き、禁止する。

2. CO₂の海底下廃棄に係る許可制度

- (1) CO₂を海底の下に廃棄しようとする者（陸域から廃棄しようとする者を含む。）は、**環境大臣の許可**を受けなければならない。
- (2) 環境大臣の許可を受けようとする者は、**環境影響を評価**しなければならない。
- (3) 許可を受けてCO₂を海底の下に廃棄する者は、海洋環境の保全に障害を及ぼさないよう廃棄し、また、**海洋環境を監視**しなければならない。



海底下CCS制度専門委員会について

設置経緯／検討状況

- **2050年カーボンニュートラルの実現**に向けては、脱炭素型技術である**CCSの活用は重要**であり、今後、**国内での海底下CCSの拡大**に加え、**海外での海底下CCS**の実施を目的とした二酸化炭素の輸出が見込まれる。**海底下CCSが海洋環境の保全と調和する形で適切かつ迅速に実施**されるよう、今後の海底下CCSに係る**海洋環境の保全の在り方について検討**が必要。
- 本年8月17日に環境大臣から中央環境審議会会長宛てに「今後の海底下への二酸化炭素回収・貯留に係る海洋環境保全の在り方について（諮問）」が諮問され、9月4日に**中央環境審議会水環境・土壌農薬部会の下に、海底下CCS制度専門委員会を設置**。
- 第1回の委員会を10月16日に開催。今後、複数回開催し、**来年1月頃までに答申**をいただく予定。

検討スケジュール

9月4日	専門委員会設置
10月16日	第1回専門委員会（海底下CCSに係る制度の現状と検討の進め方について）
11月1日	第2回専門委員会（関係団体からのヒアリング（日本CCS調査（株）、苫小牧漁業協同組合）、制度の見直しの論点について（CCS事業終了時の措置、海底下CCS目的のCO2の輸出の仕組みなど））
11～12月	報告書案の検討、パブコメ、とりまとめ
来年1月頃	中央環境審議会水環境・土壌農薬部会への報告、答申

検討委員（敬称略）

委員長：大塚 直	早稲田大学法学学術院、大学院法務研究科教授
石巻 実穂	早稲田大学理工学術院 専任講師
岡松 暁子	法政大学人間環境学部（国際法）教授
奥 真美	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授
海江田 秀志	電力中央研究所 名誉研究アドバイザー
工藤 拓毅	日本エネルギー経済研究所 理事
窪田 ひろみ	電力中央研究所 サステナブルシステム研究本部 上席研究員／東北大学大学院 環境科学研究科 特任准教授
佐々木 九郎	未来工学研究所 シニア研究員／九州大学 名誉教授
白山 義久	京都大学 名誉教授